

26 蛍光灯による色の演色性について (第3報)

岐阜大学 中野みちお

最近蛍光灯の演色性に関する研究は各方面で広く行われているが、これらの多くは物理学的又は心理学的な研究に偏し両者を比較研究したものは極めて少い。ことに被服デザインの研究にあたっては光源の演色性は色彩の調和を考える場合極めて重要な意義をもつものである。この意味において演者は第1報、第2報において標準C光源、マツダ昼色蛍光ランプ、マツダ天然昼光色蛍光ランプ、マツダ天然白色蛍光ランプ、マツダ真天然昼光色蛍光ランプ、マツダ真天然白色蛍光ランプを、実験材料として日本色彩社の色紙のうち、赤、黄、緑、青、紫の試料を選びこれらの色の演色性を分光反射曲線から計算で求めた三刺激値による結果と、肉眼観測を行った心理学的実験による結果について報告を行ったが、今回は第1報、第2報で実験を行った結果背景の色度を無彩色としたため、恒常現象で視標と同じ割合に背景の色が変化

していたのではないかと思われたため，更に色順応について究明する目的をもって背景の色を5種選び第1報，第2報に示した方法により実験を行った結果背景による色度の変化は全体に大きな差がみられなかったが，各光源別による色の演色性はかなり変化が認められたので，第3報として報告する。